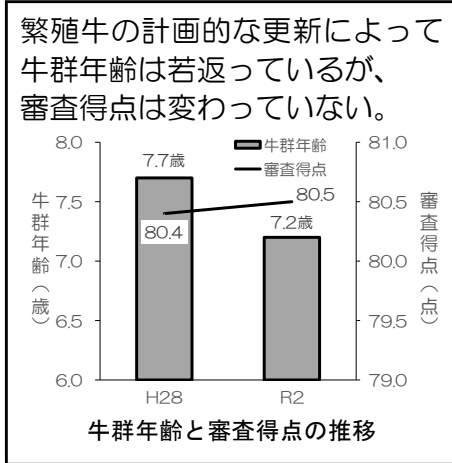


黒毛和種繁殖牛（自家保留牛）飼養管理の改善 ～ほ乳期間の発育改善～

（課題番号 9）

- ◆活動年次：令和3年度
- ◆対象：浦河町富里地区（6戸）

1 課題の背景



審査得点が高い繁殖牛の子牛は、日齢体重が低く市場価格も低い。

審査得点	日齢体重
～80	1.06
80～81	1.10
81～82	1.11
82～	1.13

審査得点が高い後継牛の確保が必要。

2 活動の経過

(1) 飼養管理の把握

分娩前の配合飼料の増給（増飼い）は全員行っていたが、複数の子牛を一緒に飼う群飼いの開始時期、ほ乳方法、スターター給与に関しては、農業者で異なっていた（表1）。

表1 各農業者の飼養管理状況について

農業者名	分娩前の衛生管理	分娩前の増飼い		子牛の群飼いの開始時期	ほ乳方法	スターター給与
		開始時期	給与量			
A	○	1ヶ月前～	2 kg	7日齢～	親付けほ乳	○
B	○	2ヶ月前～	3 kg	7日齢～	親付けほ乳	○
C	○	2ヶ月前～	2 kg	3日齢～	人工ほ乳	○
D	○	2ヶ月前～	2 kg	10日齢～	制限ほ乳	○
E	△	2ヶ月前～	3 kg	離乳後～	親付けほ乳	×
F	○	3週間前～	2 kg	1ヶ月齢～	制限ほ乳	×



写真1 関係機関と巡回

(2) 子牛の発育状況把握

体測した子牛の生時体重は大きいものの、その後の発育は農業者によって異なり、3つのパターンに分類された（図1）。

発育停滞は、個体管理から群管理への環境の変化、1ヶ月齢以降のエネルギー不足（スターター摂取量不足やほ乳量不足）、離乳時の飼料変化によって起こっていた。また、それらストレスの度合いにより発育停滞期間の長さが変化した。

離乳時の発育状況は、発育パターン①の胸囲を100とした場合、②では96%（93～99%）、③では88%（85～91%）であった。

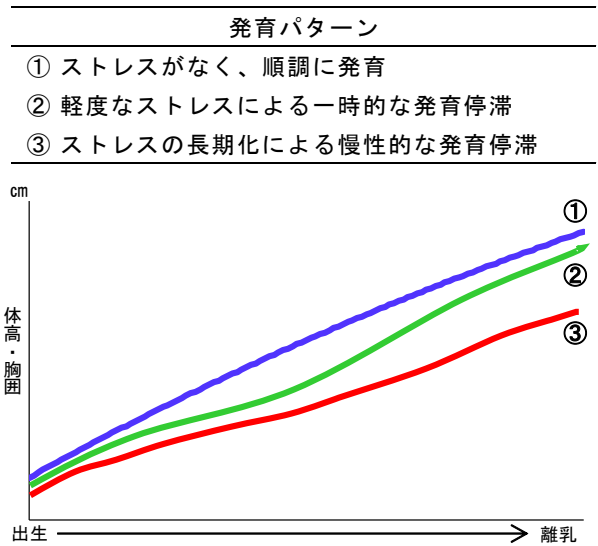


図1 離乳までの子牛の発育パターン（イメージ）

3 活動の成果（改善実践農家戸数0戸→3戸）

(1) 農業者の飼養管理に関する情報共有化

- ① 各農業者が行っている管理のポイントについて情報共有を図ることで（表2）、各農業者が参考にし、発育改善の意識が高まった。
- ② 管理のポイントについて整理した資料を作成し、農業者や関係機関と情報共有した。

表2 各農業者の管理のポイントについて

農業者名	項目	効果
B	繁殖雌牛への下痢5種ワクチン接種	重篤な下痢になりにくくなる
C、D	分娩監視装置の有効活用	分娩期の飼養期間が短くなり衛生的
F	繁殖雌牛の乳房の汚れ対応	ほ乳時の細菌侵入防止
C、D	子牛の下痢早期対応	軟便を見つけたら整腸剤給与して早期回復を図る
F	制限哺乳することでほ乳量の把握	親付け時に子牛の飲みっぷりや飲む量を観察
A、D、F	子牛の飼養環境	除糞や敷料交換をまめにしたり、分娩房は定期的な石灰塗布
A、B	スターター摂取量の把握	給与時にスターターの減り具合をみて、餌の食い込みを把握
A、B、C	餌の切り替え方法	スターターに育成配合を混ぜて給与することで餌の切り替えのストレス軽減



写真2 体測時の様子



写真3 作成した資料



写真4 JA担当者と情報共有

(2) 課題と改善に向けた取り組み

体測及び子牛の状況を農業者に聞き取りしながら課題を共有し、改善に向けた取組を実施した（表3）。石灰塗布を実施した農業者からは「ほ乳牛舎内が明るくなり下痢の早期発見に役立っている」と感想が聞かれた。

表3 各農業者の課題と改善に向けた取り組み結果

農業者名	課題	改善案	取組	結果
A	ほ乳量の不足	授乳期の母牛に配合飼料増給	○	母牛の毛づや、子牛の増体が良くなった
B	皮膚病の発生	石灰塗布の実施	×	興味は持っていたが時間が取れず、実施できなかった
C	下痢が頻発	石灰塗布の実施	○	ほ乳牛舎で実施し、下痢の早期発見に役立った
D	餌の切り替え	スターターと育成配合の混合給与	○	混合給与を開始し、離乳後の発育停滞が解消された
E	ほ乳量の不足	親付けほ乳に加えて人工ほ乳も追加	×	理解はするものの、労力不足で実施できなかった
F	良好な発育をしており、ほ育に関して課題はない		-	-



写真5 石灰塗布の実施



写真6 石灰塗布後の様子

4 今後の対応

冬期間の地区別懇談会にて活動の報告。